

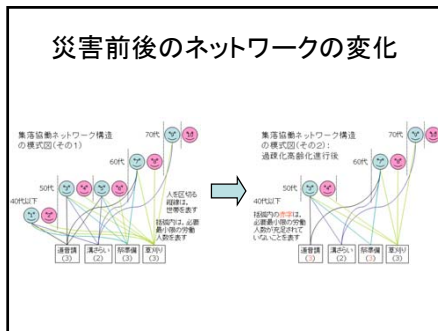
中越地震の被害概要

- 2004年10月23日午後5時56分「新潟県中越地震」発生
- 主に**中山間地**が被災
- 豪雪地帯(直後、平成17年豪雪に見舞われる)
- 被害状況(2009年10月15日現在:新潟県)
 - 死者68人(関連死を含む)
 - 重軽傷者4,795人
 - 住家被害121,604棟, 130,077世帯

農村における震災

- 中山間地には、農村集落が点在している
- 農村は、農業を営むために、集落での協力関係が欠かせない
 - 村仕事:道普請・溝さらい・草刈り・祭りの準備など

- 震災によって、これまでの人間関係には変化が生じる
 - 人がいなくなる(残された人にとって)
 - 新しい関係を作る(新しい場所に移った人にとって)
 - これまでの関係が変化する
 - 村仕事の再分配
 - 残った人と出た人の協同関係の見直し
 - 利害の再調整



方法:震災前後のパネル調査

- 新潟県中越地震(2004年10月23日)の被災地の1つである旧栃尾市(2006年より長岡市)におけるパネル調査
- 初回(震災前):2002年6月
 - 選挙人名簿から、20~79歳までの住民1084人を系統抽出
 - 郵送法による質問紙調査
 - 有効回答数は589(有効回答率54.5%)
- 中越地震:2004年10月23日
- 2回目(震災後):2006年10月
 - 1回目に回答のあった対象者のうち、2回目の時点で79歳まで
 - 郵送法による質問紙調査
 - 有効回答数は352(有効回答率68.3%)
- 文献
 - 辻竜平・針原素子, 2008, 「新潟県中越地震におけるパーソナル・ネットワークと一般的信頼の変化:震災前後のパネル調査を用いて」『社会学研究』84: 69-102.

社会ネットワークの測定

- ネットワーク・バッテリー:ネットワークの状態を明らかにするために使用される定型の質問項目とそこから得られたデータ
- 関係性(家族・親戚、仕事関係、友人、近所)
- 地理的近接性(同居、町内、市内、県内、県外)
- 関係性×地理的近接性からなる行列の**各セルに何人の人がいるかを問う**
- * 2002年の調査では市内・県内・県外をまとめて尋ねている

	家族親戚	仕事関係	友人	近所
同居				
町内				
市内		*		
県内				
県外				

ネットワーク・サイズの変化

震災前	震災前				震災後	震災後			
	被害大地域	被害小地域	町内	集落外		被害大地域	被害小地域	町内	集落外
総数	3.14				3.41				
家族・親戚	3.47				3.15				
友人									
近所の人									
被害大地域	4.13	3.00	4.05	3.63	4.37	4.11	3.74	3.07	3.07
被害小地域	2.87	3.94	2.68	3.19	2.28	2.43	3.20	2.47	2.47
町内	2.70		3.33		2.92		3.73		
集落外	3.37		4.91		3.57		4.60		
町内	3.08	3.14	3.95		3.79	3.55	2.95		
集落外	3.07	3.60	3.97		2.97	4.74	3.47		
集落外	3.91		3.54		3.23	3.23	3.13		
集落外	4.08		3.68		3.09	3.99	3.05		

- 「同居家族」以外の「家族・親戚」、「友人」、「近所の人」の人数が増えた。
- 交際の頻度や濃密さが上昇するとか、交際他者が増加するといった、**量的な増加**があった

震災被害の大小と一般的信頼の各年の差および経年変化量

一般的信頼	2002年震災前	2006年震災後
被害大 平均 (N=56)	2.827	≒ 2.845
被害小 平均 (N=270)	2.648	< 2.749

- 被害小地域(町部と農村部を含む): 震災の前後で一般的信頼が有意に**上昇**。震災後の一般的信頼の程度は被害大地域と同程度に
- 被害大地域(農村部のみ): 震災の前後で一般的信頼は**変化なし**。大部分が山村で、もともと一般的信頼が高かったためか
←還元アプローチの


一般的信頼の経年変化とネットワーク・サイズとの相関

震災前ネットワーク・サイズ	震災前地域	震災前総数	震災前地域	震災前総数
全関係ネットワーク・サイズ	大	小	大	小
全関係ネットワーク・サイズ	-.03	-.03	-.11	-.14
ネットワークの内親	-.28*	.53	-.18	.14
町内ネットワーク・サイズ				
全体	-.00	.09	-.21	.15
家族・親戚	-.06	.47	-.23	.29
住民関係	-.04	.06	-.05	.07
友人	-.04	.00	-.17	.00
近所	-.05	.41	-.06	.30
町外ネットワーク・サイズ				
全体	-.17	.48	-.11	.14
家族・親戚	-.07	.14	-.39*	.24
住民関係	-.11	.92	-.21	.22
友人	-.09	.22	-.24	.24

偏相関係数(年齢、性別、学歴の効果を統制)

- ### 被害小地域
- 町内/集落内に多くの関係を持っていた人
→一般的信頼は**変化しなかった**
 - 町外/集落外に多くの関係を持っていた人
→もともと一般的信頼は低めだったが、**上昇した**
←震災を機に町内の人々と助け合い、ネットワークを多く活用するようになったからだろう

- ### 被害大地域
- 集落外に家族・親戚がいた人
→一般的信頼が**上昇**
←彼らは、被害をあまり受けていないので、資源を活用できなかったらう
 - 震災を機に町内の家族・親戚との付き合いが増えたり、友人との関係を新たに構築する必要があった人
→一般的信頼が**減少**
←震災によって生じた諸問題に対応するために、平常時には積極的に付き合いなかった家族・親戚や友人との付き合いを余儀なくされた場合には、交渉や利害関係の調整が難航してしまうことが多かったからだろう

- ### 集落を維持しながらの復旧・復興のために
- 震災後、区長(自治会長)の役割は大きく重なる。それに耐えるだけの人量と体力のある人である必要がある。
 - 避難所での秩序を守ることが必要。救援物資を分ける原理は、必要→平等を原則に、初期段階で人間関係をきちんと維持していくことこそ、今後長く続く復旧・復興の過程において重要である。
 - 集落の神社の修復など、住民が力を合わせる行事を行ったり、復旧・復興のための望ましいあり方について話し合ったりすること、集落としての一体感を維持することが重要である。
- 

- ボランティア(団体)や同郷会など、集落外部からの援助を求めたり受け入れたりすること。これによって、閉鎖的になりがちな人間関係を解放し、外部からの情報が入りやすくなる。
 - まだ大震災を経験していないところでは、人間関係をよりよくする心がけたい。
- 